リリースノート
Sybase® ETL 4.9

ドキュメント ID：DC01038-01-0490-01
改訂：2009 年 9 月

トピック	ページ
1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス	2
2. 製品の概要	2
2.1 Sybase ETL Development	2
2.2 Sybase ETL サーバ	3
2.3 インタフェース	5
2.4 データベース	6
2.5 互換性のある製品	7
3. このバージョンで変更された機能	7
4. 特別なインストールの指示	8
5. 既知の問題	8
5.1 ETL サーバの問題	8
5.2 ETL Development とコンポーネントの問題	17
5.3 国際化の問題	30
5.4 Sybase IQ 12.7 を持つ ETL の使用に関する問題	33
5.5 ETL 製品以外の問題	34
6. マニュアル情報と変更点	38
6.1 ETL Development、製品マニュアル、およびデモの表示	38
6.2 インストール・ガイド	39
6.3 ユーザーズ・ガイド	39
7. テクニカル・サポート	41
8. その他の情報	41
8.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報	42
8.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス	43

Copyright © 2009 Sybase, Inc.All rights reserved.Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (http://www.sybase.com/detail?id=1011207 からダウンロード可能) で確認できます。Sybase および表記されている商標は、Sybase, Inc の商標です。® は、米国で登録されていることを示します。Java および Java 関連の商標は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Unicode と Unicode のロゴは Unicode, Inc. の登録商標です。このマニュアルに記載されているその他の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス

このリリース・ノートの最新バージョン (英語版) にはインターネットからアクセスできます。製品がリリースされた後で、製品またはマニュアルに関する重要な情報が追加されているかを確認するには、Sybase® Product Manuals Web サイトを使用してください。

❖ **Sybase Product Manual Web サイトのリリース・ノートにアクセスする**

1. Product Manuals (http://www.sybase.com/support/manuals/) にアクセスします。
2. [Sybase ETL] と言語を選択し、[Go] をクリックします。
3. [Document Set] リストから、Sybase ETL のバージョンを選択します。
4. [Release Bulletins] リンクを選択します。
5. マニュアルのリストから、使用しているプラットフォームのリリース・ノートへのリンクを選択します。PDF バージョンをダウンロードするか、オンライン・マニュアルを参照することができます。

2. 製品の概要

Sybase ETL 4.9 は、Sybase ETL Development および Sybase ETL サーバを含みます。

2.1 Sybase ETL Development

ETL Development でサポートされているプラットフォームおよびオペレーティング・システムは次のとおりです。

- Windows XP Professional Service Pack 3 (32 ビット)
- Windows XP Professional Service Pack 2 (64 ビット)
- Windows XP Professional N (32 ビット)
- Windows Vista － 32 ビットおよび 64 ビットの Windows Vista Business、Business N、および Enterprise エディション
- Windows Vista Ultimate Service Pack 1 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows 2003 Service Pack 2 － 32 ビットおよび 64 ビットの Windows 2003 Standard、Enterprise および Data Center エディション
- Windows 2008 － 32 ビットおよび 64 ビットの Windows 2008 Standard、Enterprise、および Data Center エディション

2.2 Sybase ETL サーバ

この項では、ETL サーバでサポートされているプラットフォーム、オペレーティング・システム、データベース、およびデータベース・インタフェースについて説明します。

2.2.1 オペレーティング・システム

表 1 (4 ページ) に、ETL サーバでサポートされているプラットフォームとオペレーティング・システムを示します。

表 1：Sybase ETL サーバ・プラットフォームとオペレーティング・システム

プラットフォーム	バージョン
HP Itanium	• 11.23 － 64 ビット • 11.31 － 64 ビット
IBM AIX	• 5.3 － pSeries 64 ビット • 6.1 － pSeries 64 ビット
Microsoft Windows	• Windows 2003 Service Pack 2 － 32 ビットおよび 64 ビットの Windows 2003 Standard、Enterprise および Data Center エディション • Windows XP Professional Service Pack 3 (32 ビット) • Windows XP Professional Service Pack 2 (64 ビット) • Windows XP Professional N (32 ビット) • Windows Vista － 32 ビットおよび 64 ビットの Windows Vista Business、Business N、および Enterprise エディション • Windows Vista Ultimate Service Pack 1 (32 ビットおよび 64 ビット) • Windows 2008 － 32 ビットおよび 64 ビットの Windows 2008 Standard、Enterprise、および Data Center エディション
Red Hat Enterprise Linux	• 4.0 x86 － 32 ビットの Advanced Server および Workstation エディション • 4.0 － 64 ビット • 5.0 － 32 ビット、64 ビット • 4.0 on POWER － 64 ビット • 5.0 on POWER － 64 ビット
Sun Solaris	• 9 (SPARC) － 64 ビット • 10 (SPARC) － 64 ビット • 10 x86 － 64 ビット
SuSE Linux Enterprise Server	• 9 Service Pack 4 (32 ビット、64 ビット) • 10 － 32 ビット、64 ビット • 9 Service Pack 4 on POWER (64 ビット) • 10 on POWER － 64 ビット

各プラットフォームでサポートされるオペレーティング・システムの一覧の詳細については、Sybase platform certifications Web site (http://certification.sybase.com) を参照してください。

2.3 インタフェース

コンポーネントから送信元データベースまたは送信先データベースへの接続のために ETL Development でサポートされているインタフェースは次のとおりです。

- Sybase
- DB2 － ソース・データベースへの接続のみがサポートされます。
- ODBC － Sybase ETL Development と同じコンピュータに ODBC ドライバをインストールし、ターゲットのシステム・データ・ソース名 (DSN) を定義する必要があります。
- Oracle － ソース・データベースへの接続のみがサポートされます。
- OLE DB － ソース・データベースへの接続のみがサポートされます。
- SQLite Persistent － ソース・データベースへの接続のみがサポートされます。

『Sybase ETL 4.9 ユーザーズ・ガイド』の「第 5 章 コンポーネント」にある「データベース接続設定」を参照してください。

表 2 (6 ページ) に、ETL サーバでサポートされているインタフェース・ドライバを示します。

表 2：Sybase ETL サーバのインタフェース・ドライバ・バージョン

ドライバ	バージョン
Sybase ネイティブ (Client-Library™ 経由)	15.0 ESD #6 (Windows) 15.0 ESD #15 (UNIX と Linux) **注意** これらのバージョンのドライバは、Sybase ETL と同時にインストールされます。
Adaptive Server® Enterprise ODBC	15.00.00.325 (Windows のみ)
SQL Anywhere® ODBC **注意** バージョン 10.0 の時点では、Adaptive Server Anywhere の名前が SQL Anywhere に変更されています。	11.00.00 (IQ 12.7 のみ)
Sybase IQ 12.7 ODBC	11.00.00.1264
Sybase IQ 15.0 ODBC	11.00.00.1264 11.00.00.5120 11.00.01.5027
Sybase IQ 15.1 ODBC	11.00.01.5027
IBM DB2 ネイティブ	8.1.8.762、9.01.00.369
IBM DB2 ODBC	8.01.08.762、9.01.00.369 (Windows のみ)
Microsoft SQL Server ODBC	2000.86.3959.00 (Windows のみ)
MySQL	5.1.4
Oracle ネイティブ (OCI (Oracle Call Interface) 経由)	11.01.00.06
Oracle ODBC	11.01.00.06 (Windows のみ)

2.4 データベース

表 3 に、ETL サーバでサポートされているリポジトリ、送信元、送信先データベースを示します。

表 3：Sybase ETL サーバによるデータベースのサポート

データベース	バージョン	リポジトリ	ソース	宛先	ステージ
Sybase Adaptive Server Enterprise	15.0.2 ESD #6 15.0.1 ESD #4 12.5.4 ESD #8 15.0.3 ESD #1	[No]	[Yes]	[No]	[Yes]

データベース	バージョン	リポジトリ	ソース	宛先	ステージ
Sybase SQL Anywhere Server	10.0 11.0 **注意** SQL Anywhere 11.0 を ETL リポジトリとして使用することをおすすめします。	[Yes]	[Yes]	[No]	[Yes]
Sybase IQ	12.7 ESD #5 15.0 15.1	[No]	[Yes]	[Yes]	[Yes]
IBM DB2 UDB	9.1 8.2	[No]	[Yes]	[No]	[No]
Microsoft SQL Server	2000 2005 SP2	[No]	[Yes]	[No]	[No]
MySQL	5	[No]	[Yes]	[No]	[No]
Oracle	10g 11g	[No]	[Yes]	[No]	[No]

2.5 互換性のある製品

Sybase ETL は、表 4 に示す Sybase 製品との互換性があります。

表 4：互換性のある製品

製品	バージョン
Replication Server®	15.0 以降
Open Client/Server™	15.0 以降
Replication Agent™	15.0 以降
Sybase Software Asset Management (SySAM)	2.0

3. このバージョンで変更された機能

Sybase ETL 4.9 の新機能と変更された機能の詳細については、『Sybase ETL 4.9 新機能ガイド』を参照してください。

4. 特別なインストールの指示

SQL Anywhere は、Sybase ETL でサポートされる唯一のリポジトリです。推奨バージョンは SQL Anywhere 11 です。ETL の以前のバージョンで他のリポジトリを使用している場合、既存の ETL リポジトリを SQL Anywhere 11 にマイグレートする必要があります。

SQL Anywhere 11 リポジトリは、Sybase ETL Development インストールに含まれています。既存のリポジトリは、SQL Anywhere 11 リポジトリに移行できます。『Sybase ETL 4.9 インストール・ガイド』の「第 4 章 アップグレード」の「既存のリポジトリの SQL Anywhere へのマイグレート」を参照してください。

5. 既知の問題

この項では、Sybase ETL 4.9 の既知の問題と対処方法について説明します。それぞれの問題には CR (Change Request) 番号が付けられています。この番号は、ETL 問題に関して Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタにお問い合わせいただく場合にお知らせください。

5.1 ETL サーバの問題

この項では、Sybase ETL サーバの既知の問題について説明します。

5.1.1 Sybase IQ の ETL 4.5 および 4.5.1 リポジトリから SQL Anywhere 11 への移行

[CR #589667] Sybase IQ の ETL 4.5 または 4.5.1 リポジトリを移行する場合、リポジトリ移行ジョブは repositoryNew データ・ソースへの書き込みを行いません。

対処方法：

1 SQL Anywhere 11 データベースの repositoryNew (repostiory49.db) で、S_CHUNK、DS_DATA、DS_OBJECT、TRON_PERFORMANCE の各テーブルを削除します。

注意 SQL Anywhere 11 のインストール中に提供されるツールを使用できます。このツールは ETL サーバと同時に提供されます。

Sybase ETL Development を使用してこれらのテーブルを削除するには、次の手順に従います。

a ETL Development を起動して、デモ・データベースにログインします。

b [File] - [New] - [Project] を選択します。

c [Destination] タブで、DB Data Sink Insert コンポーネントを追加して次の値を入力します。

プロパティ名	値
[Interface]	ODBC
[Host Name]	repositoryNew
User	dba
Password	sql
[Destination Table]	TRON_PERFORMANCE

d [Save] をクリックします。

e DB Data Sink Insert コンポーネントを右クリックし、[Execute SQL Commands] を選択します。

f 次のように入力します。

- Drop table DS_CHUNK
- Drop table DS_DATA
- Drop table DS_OBJECT
- Drop table TRON_PERFORMANCE

g [Execute] をクリックします。

各テーブルが削除されます。保存せずにプロジェクト・ウィンドウを閉じます。

2 [Repository Logon] ウィンドウでリポジトリの接続を設定します。

a [Add] をクリックして、名前に "`myRepository_ETL49`" を入力します。

b インタフェースに [ODBC] を選択します。

c ホストに [*repositoryNew*] を選択します。

d ユーザに "`dba`" を入力して、パスワードに "`sql`" を入力します。

e [Test Logon] をクリックして、接続をテストします。リポジトリ・テーブルを作成するプロンプトが表示されたら、[Yes] をクリックします。

3 『Sybase ETL 4.9 インストール・ガイド』の「第 4 章 アップグレード」の「Migrating an existing repository to SQL Anywhere」に記載されている手順に従って、4.5 または 4.5.1 リポジトリを移行します。

5.1.2 バルク・コピーと動的 SQL オプションが有効な場合に、インクリメンタル・ロードに失敗する

[CR #586690] Replication Server にバルク・コピーと動的 SQL オプションが設定されている場合、インクリメンタル・ロードに失敗します。

対処方法：Replication Server で、バルク・コピーと動的 SQL オプションをオフにします。

5.1.3 ポート構造にカラム長が正しく表示されない

[CR #585915] Port Structure Viewer の [Size] カラム内に表示されるポート構造のカラム長が、テーブルの作成に使用する SQL 文で定義されている値と一致しません。

対処方法：なし

5.1.4 UNIX で名前付きパイプを使用すると、アプリケーションの応答が停止する

[CR #585799] ETL Server が UNIX 上で動作していて、名前付きパイプを使用してデータを IQ にロードする場合、アプリケーションの応答が停止するエラーが発生する場合があります。

対処方法：プロセスを終了して、アプリケーションを再起動します。

5.1.5 Solaris で SQL Anywhere のインストールに失敗する

[CR #585784] Solaris 10 で、SQL Anywhere 11 が正常にインストールされません。

対処方法：PATH 変数で、*/usr/ucb/bin* の前に */bin* を含めます。

5.1.6 テーブル名が存在するかどうかの確認が行われない

[CR #585059] "schema.name" 形式以外で新しいテーブル名を指定した場合、指定した名前のテーブル名が既に存在すると、テーブルの作成中にエラーが発生します。

対処方法：新しいテーブル名は "schema.name" 形式で指定します。例：dbo.table1

5.1.7 ETL Development または ETL サーバの再起動後に、スケジュール・タスクが繰り返されない

[CR #584982] ETL Development または ETL サーバを再起動すると、スケジュールに指定された [Repeat Task] オプションが無視され、指定された時間でタスクが繰り返されません。

対処方法：各繰り返しスケジュールについて個別のスケジュール・タスクを作成します。

5.1.8 Replication Server で複写が正しく削除されない

[CR #584555] 複写を手動で削除する場合、複写の状態が [Dropped] に変更しますが、Replication Server 内で実際に複写が削除されない場合があります。

対処方法：もう一度手動で複写を削除します。

1 CDC (Capture Data Changes) Provider Sybase Replication Server コンポーネントを右クリックします。

2 [Drop Replication] を選択します。

5.1.9 アラート電子メール通知で、処理されたローの合計数が表示されない

[CR #584083] アラート電子メール通知に [ProcessRows] イベント・プロパティを含めると、送信先テーブルにロードされたローの合計数ではなく、処理されたローの合計数が評価されます。『Sybase ETL 4.9 ユーザーズ・ガイド』の「第 4 章 高度な概念とツール」の「実行時イベントに対するアラートの設定」を参照してください。

対処方法：なし

5.1.10 ETL をアンインストールすると、Sybase Central で Sybase IQ への接続に失敗する

[CR #582762] Sybase IQ 15.1 と ETL 4.9 が同じマシンにインストールされている場合に ETL をアンインストールすると、Sybase Central™ を使用して IQ デモ・データベースに接続できなくなります。

対処方法：次のいずれかの操作を行います。

- ETL のアンインストール後に、*c:¥IQ¥IQ-15_1¥bin32* にある *dbodbc11.dll* を、*c:¥IQ¥ETLDevelop49* にコピーします。

- Sybase IQ ドライバを使用して ODBC データ・ソースを作成し、[Identification] タブで [ODBC data source name] を選択します。Sybase Central を IQ デモ・データベースへ接続するときに、作成したデータ・ソース名を入力します。

5.1.11 ETL 4.9 のインストール後に、Sybase IQ デモ・データベースを起動できない

[CR #582749] Sybase IQ 15.1 の 64 ビット・エディションを、Sybase ETL Development と ETL サーバのインストール先と同じディレクトリにインストールすると、IQ デモ・データベースが起動しない場合があります。

対処方法：64 ビット版の Visual Studio 再頒布可能パッケージを手動でインストールします。

1. Sybase ETL サーバと ETL Development のインストール後にマシンを再起動します。
2. 次のいずれかをダウンロードしてインストールします。
   - Visual Studio 2005 再頒布可能パッケージを入手するには、Microsoft Download Center (http://www.microsoft.com/DOWNLOADS/details.aspx?familyid=EB4EBE2D-33C0-4A47-9DD4-B9A6D7BD44DA) にアクセスします。
   - Visual Studio 2008 再頒布可能パッケージを入手するには、Microsoft Download Center (http://www.microsoft.com/DOWNLOADS/details.aspx?familyid=BD2A6171-E2D6-4230-B809-9A8D7548C1B6) にアクセスします。
3. Sybase IQ 15 デモ・データベースを再起動します。

5.1.12 ODBC 接続を使用すると SQL 文の実行に失敗する

[CR #581741] IQ への接続に ODBC が使用されている場合、IQ テンポラリ・オプションが設定された SQL 文は実行されません。

対処方法：Sybase インタフェースを使用して IQ に接続します。

5.1.13 データベース・サーバに Oracle を使用すると、Solaris でプロジェクトの実行に失敗する

[CR #580854] Oracle のソース・データベースを Sun Solaris 10.0 上で実行している場合、Sybase ETL サーバは Oracle に接続できません。

対処方法 : Oracle データベース・サーバ用の最新の 11.1.0.7 パッチをダウンロードしてインストールします。

5.1.14 svc.conf ファイルが UTF-8 形式で保存されていない場合、ETL サーバの再起動に失敗する

[CR #576388] *etc* サブディレクトリ内の *svc.conf* ファイルが UTF-8 エンコード形式以外で更新され保存されている場合、ETL サーバの起動に失敗します。

対処方法 : テキスト・エディタを使用して *svc.conf* を開き、ファイル形式を UTF-8 エンコードに変更します。

5.1.15 ASE をソースに、ODBC をインタフェースに使用した場合の問題点

[CR #575450] Adaptive Server Enterprise をソース・データベースに、ODBC を接続インタフェースに使用すると、データベース内で作成されたテーブルの一部が返されない場合があります。この問題は、ユーザのロールと関連します。sa_role を持たないユーザがテーブルを作成し、後にこのロールがユーザに付与された場合、sa_role が付与される前に作成されたテーブルは、テーブルのリストの要求時に表示されません。

対処方法 :

- すべてのテーブルにアクセスできる権限をユーザに付与します。ODBC インタフェースを使用してテーブルを要求します。
- または、インタフェースに Sybase を指定して、テーブルのリストを要求します。必要なテーブルを選択したら、インターフェースを ODBC に戻します。

5.1.16 50 以上のプロジェクトのジョブを実行すると、ETL サーバがクラッシュする

[CR #564661] Sybase ETL サーバは、50 以上のプロジェクトのジョブを実行すると、過度のメモリ消費のためにクラッシュします。

対処方法 : 過度のメモリ消費を制限するには、次の手順を実行します。

1. [Sybase ETL Development] ウィンドウから [File] - [Preferences] を選択します。
2. [Performance Logging] を選択し、レベルを「0」に設定します。

5.1.17 OCS を使用して SQL Anywhere 11 データベースへのリポジトリ接続を作成すると失敗する

[CR #563581] SQL Anywhere 11 データベースの最新 EBF を使用し、OCS のコネクティビティを使用して、このデータベースにリポジトリ接続を作成すると、エラーが発生する可能性があります。

対処方法 : ETL 4.9 に同梱されている SQL Anywhere 11 のバージョンをインストールするか、ODBC コネクティビティを持つ SQL Anywhere 11 にアクセスします。

5.1.18 Windows 2008 でプロジェクトを印刷すると、間違ったファイル・パスが表示される

[CR #560347] Windows 2008 では、プロジェクトが XML として正常に印刷された後で、メッセージに間違ったファイル・パスが表示されます。

対処方法 : インストール・ディレクトリの [*reports*] フォルダに移動し、ファイルを開いて表示します。

5.1.19 Sun Solaris で ETL サーバの起動に失敗する

[CR #559206] インストールの際に [Install for all users] オプションを選択し、ホーム・ディレクトリを設定していない場合、ETL サーバによる Sun Solaris の起動は失敗します。

対処方法 : HOME ディレクトリ変数を正しいホーム・ディレクトリ、または書き込みパーミッションが与えられたディレクトリに設定します。

5.1.20 SySAM ライセンスの有効期限切れ警告メッセージが英語でのみ表示される

[CR #557213] HP-UX を除く UNIX のすべてのプラットフォームでは、Sybase ソフトウェア資産管理 (SySAM) ライセンス有効期限切れ警告メッセージは、インストールの際に選択した言語にかかわらず、英語でのみ表示されます。

対処方法 : なし

5.1.21 ETL サーバによる HP-UX でのプロジェクトの実行に失敗する

[CR #556856] 特定の HP-UX 11v23 マシンでは、プロジェクトの実行が失敗する可能性があります。

対処方法 : 次のパッチをダウンロードして、インストールします。

パッチ	説明
PHCO_34974 s700_800 11.23	SAM 累積パッチ
PHNE_33283 s700_800 11.23	nettl(1M)、netfmt(1M)、およびnettladm(1M) パッチ
PHNE_34150 s700_800 11.23	r-commands 累積メガ・パッチ
PHNE_35770 s700_800 11.23	telnet kernel、telnetd(1M)、telnet(1) パッチ
PHNE_34698 s700_800 11.23	ftpd(1M) および ftp(1) パッチ

5.1.22 Solaris における getaddrinfo() の機能制限

[CR #556653] Solaris マシンで getaddrinfo() 機能を使用すると、ETL サーバがエラー・メッセージを表示します。

対処方法 : *#solaris_10u5(s10u5_07)* パッチをダウンロードして、使用しているマシンにインストールします。

5.1.23 大きなスクリプトのデバッグ中に JavaScript エディタのシステム・エラーが発生する

[CR #555171] JavaScript エンジン・ランタイムの最大サイズは、デフォルトで 20000000 バイトまたは 19.07MB です。大きなスクリプトや、ループの繰り返しが多いスクリプトなどの実行時間の長いスクリプトをデバッグすると、メモリに関する問題が発生する可能性があります。

対処方法 : *Default.ini* ファイルに、JavaScript エンジンが使用する最大メモリ・サイズを設定します。設定するには、次を実行します。

- インストール・フォルダの *etc* ディレクトリに移動し、テキスト・エディタを使用して [*Default.ini*] ファイルを開きます。
- [Scripting] セクションに、次を追加します。

```
Runtime Memory = <a new number for memory in bytes>
```

5.1.24 ローダ・コンポーネントのモニタに関する問題

[CR #555170] Web ブラウザを使用して、IQ Loader File via Load Table コンポーネントおよび IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントを含むプロジェクトをモニタすると、進行ステータスの表示が不可能な場合があります。

対処方法 : なし

5.1.25 コマンド・ラインから起動したプロジェクトをモニタできない

[CR #553669] Web ベースのリモート・モニタリングは、コマンド・ラインから起動したプロジェクト実行のモニタに失敗します。ETL 4.9 では、コマンド・ラインから起動したジョブのみをモニタできます。

対処方法 : 簡単なジョブを作成し、モニタするプロジェクトを含めます。

5.1.26 ETL を Sybase IQ と同じディレクトリにインストールできない

[CR #551068] Sybase ETL および Sybase IQ を同じディレクトリにインストールすると、インストールが失敗します。Sybase IQ によってインストール中にアンインストール・ディレクトリが作成され、Sybase ETL によって同じ名前でファイルが作成されるため、インストールは失敗し、エラー・メッセージが表示されます。

対処方法 : ETL を、Sybase IQ と同じディレクトリにインストールしないでください。

5.1.27 特定の Sybase IQ サーバに接続をキャッシングするサーバ名を使用する

[CR #540023] 同じサーバ名、データベース名、ポート番号を持つ複数の Sybase IQ サーバを使用している場合、ETL によって、ODBC を使用して特定の Sybase IQ サーバに接続できない場合があります。

対処方法 : ターゲットの Sybase IQ サーバに接続をキャッシングするサーバ名を使用します。使用している ETL サーバの *.odbc.ini* ファイルで、DoBroadcast=DIRECT 通信パラメータを CommLinks 接続パラメータに追加します。

```
CommLinks=tcpip(DoBroadCast=DIRECT;host=iq server;port=2638)
```

『Sybase IQ 12.7 システム管理ガイド』の「第 3 章 Sybase IQ 接続」の「迅速な接続のためのサーバ名キャッシュ」を参照してください。

5.1.28 Sybase IQ でテンポラリ領域が十分でない場合、ETL サーバの応答が停止する

[CR #539896] Sybase IQ から大量のデータを転送するときに、送信元の Sybase IQ データベース・サーバのテンポラリ領域が十分でない場合、ETL サーバの応答が停止する可能性があります。

対処方法 : Sybase IQ サーバのテンポラリ領域を 1 GB 以上に増やします。

5.1.29 ETL 4.9 をインストールすると、以前のバージョンの ETL Development を実行できない

[CR #535684] ETL 4.9 は、レジストリとリソースで競合が発生するため、ETL Development の以前のバージョンと同時に実行できません。使用しているマシンに ETL Development の以前のバージョンがインストールされている場合、同じマシンに ETL 4.9 をインストールすると以前のバージョンの起動とデモ・データ・ソースへの接続ができなくなります。

対処方法：ETL Development の以前のバージョンを引き続き使用する場合は、ETL の以前のバージョンがインストールされているマシンに、ETL 4.9 をインストールしないでください。

5.1.30 接続制限を超えると、Sybase IQ への接続がロックする

[CR #496226] プロジェクトおよびジョブの実行後に、ETL から Sybase IQ への複数の接続がオープンなままである場合、オープンな接続が Sybase IQ の接続制限を超えると、Sybase IQ への接続がロックされる可能性があります。ETL がカラム記述を取得できず、ETL がデータベースの接続制限を超え、ETL が Sybase IQ に接続できないことを示すエラー・メッセージを受け取ります。

対処方法 : Sybase IQ の接続制限を増やします。『Sybase IQ 12.7 システム管理ガイド』の「第 12 章 ユーザ ID とパーミッションの管理」の「IQ のユーザ・アカウントと接続の管理」を参照してください。

5.2 ETL Development とコンポーネントの問題

この項では、ETL Development とコンポーネントの既知の問題について説明します。

5.2.1 Structure Viewer に、XML via SQL Data Provider コンポーネントのデータ型が表示されない

[CR #590001] XML via SQL Data Provider コンポーネントの OUT ポートを右クリックして構造を表示すると、Structure Viewer の [Data Type] フィールドになにも表示されません。これにより、編集可能な構造をもつ後続のコンポーネントが正しいポート構造を取得できなくなります。

対処方法 : 後続のコンポーネントのポート構造を手動で割り当てます。

5.2.2 コミット時間がプロジェクトまたはジョブの開始時間より遅くても、Oracle のデータ変更を受信する

[CR #589603] プライマリ・データベースが Oracle の場合、コミット時間がジョブまたはプロジェクトの開始時間より遅くても、CDC Provider Sybase Replication Server コンポーネントが変更データを受信します。

対処方法：プロジェクトの実行中は、プライマリ・データベースへの書き込みは行わないでください。

5.2.3 Replication Server がインタフェース名を認識しない

[CR #588669] ソース・データベース、Replication Server、ETL サーバ用の interfaces ファイル内の SYBETL_VIR_RDBMS エントリが 20 行以上の場合、Replication Server はインタフェース名を認識しません。

対処方法：interfaces ファイル内の SYBETL_VIR_RDBMS エントリは 20 行未満にしてください。

5.2.4 デモ・データベースが古いリポジトリのデータ・ソースに接続する

[CR #588134] 以前のバージョンの ETL Development がインストールされており、すべてのユーザが以前のバージョンの ETL Development をアンインストールして ETL Development 4.9 をインストールする場合、まだ ETL Development 4.9 をインストールしていないユーザがリポジトリへの接続を試みると、デモ・データベースは ETL Development 4.8 リポジトリのデータソースに接続されます。

対処方法：

- すべてのユーザが ETL Development の以前のバージョンをインストールしている場合、アップグレード前に、それぞれのユーザ情報でログインし、ODBC Data Source Administrator を使用して、DEMO_Repository、ETLDEMO_DWH、ETLDEMO_GER、ETLDEMO_US の各データ・ソースを削除します。以前のバージョンの ETL Development をアンインストールする予定が無い場合は、これらのデータ・ソースを削除しないで、名前を変更します。
  例：<old name_version number>

  『ETL 4.9 インストール・ガイド』の「第 4 章 アップグレード」を参照してください。

- 古いデータ・ソースを名前変更または削除せずに新しいバージョンを既にインストールしている場合は、古いデータ・ソースを手動で削除します。『ETL 4.9 インストール・ガイド』の「第 3 章 インストール後の作業」の「デモ・リポジトリの ODBC データ・ソースの初期セットの復元」に説明されている手順に従います。

  注意 インストール・ロケーションではなく、ユーザ・データ・ロケーションのデータベース・ファイルを指定してください。

  古いデータ・ソースを削除しようとしてエラーが発生した場合、次のように各ユーザのエントリを上書きできます。

  - インストール・ディレクトリの *etc* フォルダにある *userdata.conf* のコピーを保存します。
  - *userdata.conf* ファイルを編集して、ODBC 項にあるすべての "once" を "always" に置き換えます。
  - 各ユーザについて次を実行します。

    1. マシンにログインして ETL Development を起動し、次にアプリケーションを停止します。
    2. ODBC データ・ソース・エントリが SQL Anywhere 11 を使用していることを確認して、ユーザ・データ・ディレクトリ内の適切なデータベース・ファイルに接続します。

    すべてのユーザが ETL Development にログインしたら、元の *userdata.conf* ファイルに戻します。

    『ETL 4.9 インストール・ガイド』の「第 3 章 インストール後の作業」の「インストールが適正に行われたかどうかの確認」を参照してください。

5.2.5 IQ への接続に使用するインタフェースを変更するとエラーが発生する

[CR #587862] Sybase IQ データベースへの接続に使用するインタフェースを変更すると、エラーが発生してコンポーネントが IQ への接続に失敗する場合があります。

対処方法：インタフェースの変更後にグリッド・エンジンを再起動します。

5.2.6 [Truncate] が選択されていても Upsert 関数が処理される

[CR #587639] [Truncate] オプションが選択されていても、前処理 SQL コードの実行前にターゲット・テーブルがクリアされません。したがって、Upsert または Delete 関数が空でないテーブル上で処理され、エラーが発生します。

対処方法：Upsert または Delete 関数の処理前にターゲット・テーブルをクリアして再設定するには、[Truncate] が選択されていないことを確認して、pre-SQL スクリプトを使用して、テーブルのクリアを実行します。

5.2.7 スキーマ・オプションが設定された DB Data Provider Full Load を使用するとエラーが発生する

[CR #587092] DB Data Provide Full Load コンポーネントのスキーマは、[automatically add missing schema information] オプションをサポートしません。DB Data Provide Full Load コンポーネントを使用しているプロジェクトの実行時にエラー・メッセージが表示される場合があります。

対処方法：スキーマをクエリ文で指定します。

5.2.8 Text Data Provider が引用符文字やデリミタを正しく読み取らない

[CR #586711] Text Data Provider コンポーネントでは、ある値に引用符文字を指定して、読み取る値の最初の文字がその引用符文字である場合、データは正しく読み取られません。

対処方法：なし

5.2.9 グリッド・エンジンが複数のサブネット上に存在する場合、CDC Provider Replication Server コンポーネントにエラーが発生する

[CR #585575] グリッド・エンジンが複数のサブネット上で稼働している場合、またはサブネットが不安定な場合、CDC Provider Replication Server コンポーネントは動作しない場合があります。

対処方法：Replication CDC サービスを起動するすべてのグリッド・エンジンは同一のサブネット上に配置する必要があります。

5.2.10 CDC Provider Replication Server コンポーネントへの接続時にエラーが発生する

[CR #584015] Replication Server、interfaces ファイル、Open Client/Server (OCS) ライブラリを正しく設定しないと、Replication Server で、ETL CDC Provider Replication Server コンポーネントへの接続時に接続エラーが発生します。

複写が正常に作成されても、プロジェクトの実行時にエラーが発生します。このようなケースでは、複写を削除することもできません。

対処方法：次を確認します。

- Replication Server と ETL サーバの interfaces ファイルが正しく設定されている。詳細については、『Sybase ETL 4.9 ユーザーズ・ガイド』の「第 5 章 コンポーネント」を参照してください。
- Replication CDC サービスを起動するグリッド・エンジンが、すべて同じサブネットに存在している。
- プライマリ・データベースが Replication Server に追加されている。
- グリッド･エンジン名と Replication CDC サービス名が一意である。これを確認するには、次を実行します。

```
GridNode --repcdcinstancename <my rep cdc instance name> --nodename <my
node name>
```

5.2.11 Delete 関数を選択すると一貫性のない結果が表示される

[CR #581370] DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントに対して Delete 関数を選択すると、シミュレーション中と実行中に表示される結果に一貫性がない場合があります。

対処方法：なし

5.2.12 排他ロックを取得するまでの待機時間がプロジェクトで無視される

[CR #580679] DB Data Sink、DB Staging、Loader、DB Bulk Load Sybase IQ の各コンポーネントに対して、[IQ Lock Table in Exclusive Mode] オプションを選択して、プロジェクトがロックの取得まで待機する最長ブロック時間を指定した場合、プロジェクトは待機せずにロックを取得しようとします。この場合、他のプロジェクトにロックが取得されているとエラーが発生します。

対処方法：ジョブ内でプロジェクトの実行を逐次化します。

5.2.13 DB Staging コンポーネントが大量のデータをバルクロードできない

[CR #577621] DB Staging コンポーネントが、ODBC インタフェースを使用して大量のデータを Sybase IQ 15.0 データベースへバルクロードすると、エラーが発生します。Sybase ETL サーバで次のエラー・メッセージが生成されます。

```
std::bad_alloc
```

対処方法：データのバルクロードには小さな書き込みブロック・サイズを使用します。

5.2.14 Upsert 関数の処理時に INSERT 操作が動作しない

[CR #575891] DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントでは、Upsert 関数の処理時に DELETE 操作は正常に動作しますが、挿入されるいずれかのカラムでデータ型変換エラーが発生すると、INSERT 操作に失敗します。[Execute post-processing for successful execution] を選択してトランザクションをコミットすると、失敗した INSERT 操作はコミットされません。更新されるはずの元のローは、テーブルから削除されます。

対処方法：[Execute post-processing for failed execution] を選択して Delete 操作をロールバックして、テーブルを元の状態にリセットします。

5.2.15 DB Data Sink コンポーネントの Insert Options プロパティと Update Options プロパティの評価設定が有効化されている

[CR #572569] プロジェクトの実行中に [Evaluate] オプションが有効化されていない場合、角カッコ表記 (SBN) が正しく評価されません。

対処方法：[Evaluate] オプションを選択してプロジェクトを保存し、コンポーネント内の式のプロパティ値の評価を許可します。

5.2.16 大きなデータを扱う場合、DB Staging コンポーネントが Sybase IQ データベースへの接続に失敗する

[CR #566615] ソース・データが大きい場合、DB Staging コンポーネントは ODBC インタフェースを使用した Sybase IQ データベースへの接続に失敗します。

対処方法：使用している Sybase IQ 15.0 データベースで、Force_No_Scroll_Cursors オプションをオフに設定します。『Sybase IQ リファレンス・マニュアル』を参照してください。

5.2.17 Insert Location コンポーネントが前処理 SQL をサポートしない

[CR #564099] [Use remote server definition for source database] オプションが有効な場合、IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントの Source Pre Processing SQL プロパティは無視されます。

対処方法：なし

5.2.18 ODBC ドライバがインストールされていない Linux および UNIX マシンで、マルチプレックスの実行が失敗する

[CR #560953] SQL Anywhere 11 または Sybase IQ 15 ODBC ドライバがインストールされていない UNIX または Linux マシンの [Use IQ Multiplex] オプションを選択すると、プロジェクトの実行に失敗します。

対処方法：Sybase ETL と同時にインストールされる SQL Anywhere 11 ODBC ドライバを使用します。

5.2.19 DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントは、データを SuSE マシンにロードすることができない

[CR #560814] SuSE では、ODBC 環境が適切に設定されていない場合、DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントはデータのロードに失敗します。プロジェクトが実行されると、Sybase ETL サーバはエラー・メッセージなしで予期せず終了します。

対処方法：次の手順に従ってください。

1. SQL Anywhere 11 または Sybase IQ 15 ODBC ドライバをインストールします。
2. ODBC を LD_LIBRARY_PATH 環境変数に追加します。
3. *libodbc.so* を *ASA11/IQ15* インストール・ディレクトリの *libdbodbc11.so* にリンクします。
4. ETL サーバを再起動します。

5.2.20 IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントでの複数ライタの使用に関する問題

[CR #560036] 複数ライタを使用するには、ターゲット IQ データベースの sp_iqtable と sp_iqcolumn ストアド・プロシージャ特権での実行パーミッション、および create table と execute sp_iqstatistics での適切なパーミッションが必要です。

対処方法 : Sybase Central を使用して必要なパーミッションを設定します。

1 Sybase Central で、DBA ユーザまたは dbo ロールのメンバとして Sybase IQ 15.0 サーバに接続します。

2 [Users & Groups] を展開し、パーミッションを設定するユーザまたはグループを選択します。

3 ユーザまたはグループを右クリックし、[Properties] を選択します。

4 [Permissions] タブを選択し、[Procedures & Functions] を選択して、使用可能なパーミッションのリストを表示します。

5 sp_iqtable および sp_iqcolumn を選択して、対応する Execute カラムをクリックし、IQ データベースのストアド・プロシージャを実行するユーザ・パーミッションを与えます。

6 [OK] をクリックして設定を保存します。

5.2.21 データベース値が指定されている場合、プロジェクトが実行できない

[CR #556364] DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネント、IQ Loader File via Load Tables コンポーネント、および IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントの [Use IQ Multiplex] オプションを有効にした場合、IQ マルチプレックス環境のライタを選択し、[Database] プロパティ・フィールドでデータベースを指定すると、プロジェクト実行時にエラーが表示される可能性があります。

対処方法 : [Use IQ Multiplex] オプションを選択する際、[Database] プロパティ・フィールドでデータベースを指定しないでください。

5.2.22 カラム数が大きいテーブルをマイグレートする際、エラー・メッセージが表示される

[CR #549882] マイグレーション・ウィザードを使用して、ワイド・テーブルをマイグレートする場合、マイグレーション処理の終わりにこのエラー・メッセージが表示されることがあります。

```
An error occurred during execution of the engine.
Commit Failed: Client Library Message: severity(0)
layer(1) origin(1) number(50) Text: ct_cmd_drop(): user
api layer: external error: The connection has been
marked dead.

Cannot execute the last command.

Please refer to the Message section.
```

```
The migration failed due to the previous error. Unable
to open the generated job.
```

エラー・メッセージにかかわらず、テーブルは正常にターゲット・データベースにマイグレートされ、生成されたジョブを手動で開いてデータを転送できます。

対処方法：Sybase インタフェースを使用してソース・データベースに接続している場合や使用している OCS バージョンが 15.0 ESD #13 以降の場合、このエラーが表示されます。このエラーを回避するには、次のようにします。

- ODBC インタフェースを使用してソース・データベースに接続します。
- Sybase インタフェースを使用して、ソース・データベースに接続している場合、OCS バージョン 15.0 ESD #7 を使用します。

5.2.23 Windows Vista での名前付きパイプの使用に関する問題

[CR #549539] Windows Vista では、DB Bulk Load IQ コンポーネントの Load Stage プロパティのパイプ名を指定できません。

対処方法：Vista マシンのファイアウォール設定を変更します。

1. [スタート] に移動し、[コントロール パネル] - [セキュリティ センター] - [Windows ファイアウォール] の順に選択します。
2. [例外] タブをクリックします。
3. [プログラムおよびサービス] で [ファイルとプリンタの共有] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

5.2.24 DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントを使用すると、マルチバイト文字のファイル名をロードできない

[CR #549397] DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントは、名前のマルチバイト文字を使用して ETL によって生成されたファイルからデータのロードに失敗します。次のエラー・メッセージが表示されます。

```
Could not execute statement. Right truncation of string
data.
```

対処方法：ターゲット・データベースが Sybase IQ 15.0 の場合、マルチバイト文字を DB Bulk Load Sybase IQ コンポーネントの Load Stage ファイル名として使用しないでください。

5.2.25 XML として出力されたプロジェクト・レポートが Windows Vista で開くことができない

[CR #546658] Windows Vista Business 32 ビット版では、XML 出力を使用して生成されたプロジェクト・レポートが表示されると、Sybase ETL がエラーを生成します。

対処方法：Windows Vista に Service Pack 1 をインストールします。

5.2.26 DB Staging データベースとして SQL Anywhere を使用するとエラーが表示される

[CR #546257] DB Staging コンポーネントでは、Sybase コネクティビティのある SQL Anywhere データベースを使用し、OCS 15.0 ESD #7 以降のバージョンを使用している場合、このエラーが発生する可能性があります。

```
"The connection has been marked dead."
```

注意 Sybase IQ をステージング・データベースとして使用している間に同じようなエラーが発生した場合、同じ対処方法をとります。

対処方法：

- ODBC コネクティビティを持つ SQL Anywhere または Adaptive Server Enterprise を使用します。
- Sybase インタフェースを使用している場合、ETL 4.9 に同梱されている OCS バージョンを使用します。
  - Windows － 15.0 ESD #6
  - UNIX および Linux － 15.0 ESD #15

5.2.27 LOB がファイル・モードで正常に作動しない

[CR #543229] LOB (大きいオブジェクト) データをファイル・モードで Sybase IQ データベースに転送すると、抽出中にファイルの元の内容が変換されます。

対処方法：IQ Loader File via Load Table コンポーネントまたは IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントを使用して、Sybase IQ へ LOB データを転送します。

詳細は、『Sybase IQ リファレンス・マニュアル』の「SQL 文」の章の「LOAD TABLE 文」および「INSERT 文」を参照してください。

5.2.28 テーブルに多数のカラムが含まれる場合に、ETL の応答が停止する場合がある

[CR #541647] 数千ものカラムが含まれるテーブルを持つプロジェクトを実行すると、ETL サーバの応答が断続的に停止する場合があります。プロジェクトを保存しようとすると、ETL Development の応答も断続的に停止する場合があります。

対処方法：なし

5.2.29 FTP ソースで [Skip First Rows] が 0 である場合、Text Data Provider が失敗する

[CR #540626] コンポーネントのテキスト・ソースとして FTP URL を入力するときに、[Skip First Rows] フィールドでデフォルト値 0 のままにすると、[Text Data Provider] コンポーネントはデータを転送しません。

対処方法：[Skip First Rows] フィールドに 1 を入力して設定を保存し、[Skip First Rows] の値を 0 に変更して設定をもう一度保存します。

5.2.30 ネットワーク・パケット・サイズの設定が正しくない場合に Insert Location プロジェクトが失敗する

[CR #536684] コンポーネントのネットワーク・パケット・サイズが Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズ以上である場合、ソースとして Adaptive Server を使用し、IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントを含むプロジェクトが失敗します。

対処方法：プロジェクトを実行する前に、次の操作を行います。

1. Adaptive Server に接続し、sp_configure 'max network packet size' を実行して、Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズの Run Value (実行値) を表示します。
2. ETL で、手順 1 で取得した Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズの Run Value (実行値) 以下である、IQ Loader DB via Insert Location のパケット・サイズを入力します。

たとえば、ETL で、Adaptive Server の最大ネットワーク・パケット・サイズの Run Value が 2048 バイトである場合、IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントの ETL パケット・サイズは、Adaptive Server Run Value の 4×512＝2048 バイトなので、4 以下にする必要があります。

5.2.31 Insert Location コンポーネントが暗号化パスワードをサポートしない

[CR #536482] 送信元データベースが Sybase IQ 12.7 または Sybase IQ 15.0 である場合、Sybase ETL 4.9 では、IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントの接続情報で [Encrypted Password] オプションがサポートされません。

対処方法：なし

5.2.32 uSetLocale JavaScript 関数は、Windows プラットフォームのみで動作します。

[CR #531483] uSetLocale JavaScript 関数は、Windows プラットフォームのみで動作します。UNIX プラットフォームでは、uSetLocale をどの言語に設定しても、uMonthName、uMonthNameShort、uWeekdayName、および uWeekdayNameShort の出力が英語で表示されます。

対処方法：なし

5.2.33 マイグレーション・ウィザードでテーブル名とカラム名をデータベース・キーワードにできない

[CR #496346] マイグレーション・ウィザードで、「変数」データベース・キーワードにテーブルまたはカラムの名前を使用できません。

対処方法：なし

5.2.34 ソース・テーブルのカラム長からトランケートされた余分な文字

[CR #493550] ソース・テーブルのカラム長がターゲット・テーブルのカラム長より長い場合、ETL は警告なしで余分な文字をトランケートします。この現象は、Sybase インタフェースを使用して、Staging コンポーネントで Adaptive Server をステージ・データベースとして使用している場合のみに発生します。

対処方法：データを転送する際、ターゲット・テーブルのカラム長がソース・テーブルのカラム長と等しいまたはそれ以上であることを確認します。

5.2.35 Splitter コンポーネントでポート構造が継承されない

[CR #492443] Data Splitter JavaScript コンポーネントと Copy Splitter コンポーネントでは、既存のポートが再割当てされたときに、ポート構造が継承されません。

対処方法：ポートを選択して構造を割り当てます。

5.2.36 Sybase IQ にアクセスする際にパフォーマンスが低下する

[CR #447948] Sybase IQ にアクセスする際に、DB Staging、DB Data Sink Insert、DB Data Sink Update、DB Data Sink Delete などのコンポーネントを使用すると、パフォーマンスが低下します。

対処方法：パフォーマンスを向上するには、次のいずれかの操作を行います。

- IQ Loader File via Load Table ローダ・コンポーネントと IQ Loader DB via Insert Location ローダ・コンポーネントを使用して、Sybase IQ へのロードを高速化します。
- プロジェクトのステージング部分に対して、Sybase IQ ではなく、Adaptive Server Enterprise、Adaptive Server Anywhere、または Microsoft Access を使用します。
- ステージングで Sybase IQ を使用する場合は、プロジェクトを新しいステージング・プロジェクトとローディング・プロジェクトに分割します。新しいステージング・プロジェクトで DB Staging ではなく DB Bulk Load Sybase IQ を使用し、新しいローディング・プロジェクトで IQ Loader File via Load Table と IQ Loader DB via Insert Location を使用して、Sybase IQ へのロードを高速化します。
- Sybase IQ から抽出されたバイナリ・データのロードのために IQ Loader File via Load Table コンポーネントを使用します。Sybase IQ テーブルからバイナリの抽出を実行するには、isql ユーティリティを使用して、カスタム・スクリプトを作成する必要があります。
  - Source IQ システムでのデータの抽出

    ```
    set TEMPORARY OPTION
    Temp_Extract_Name1='C:¥myfolder¥mybinfile.bin';
    set TEMPORARY OPTION Temp_Extract_Binary='ON';
    SELECT * FROM mytable
    ```

  - [Text Source] プロパティ・ウィンドウにダミー・ファイル名を設定することにより、IQ Loader File via Load Table コンポーネントにカスタム・ロード・スクリプトを作成します。

    ```
    LOAD TABLE mytable
    {
    [myCol1] BINARY WITH NULL BYTE,
    [myCol2] BINARY WITH NULL BYTE,
    [myCol3] BINARY WITH NULL BYTE
    )
    FROM '<path&filename on destination system>'
    QUOTES OFF
    ESCAPES OFF
    FORMAT binary
    ```

『Sybase IQ 12.7 システム管理ガイド』の「第 7 章 データベースへのデータの入出力」を参照してください。

5.3 国際化の問題

この項では、マルチバイトの西欧言語以外の文字を使用した場合の既知の問題について説明します。

5.3.1 グリッド・エンジンが IPv6 を検出できない

[CR #588535] Windows Vista に ETL Development 4.9 をインストールして IPv6 を有効にしている場合、グリッド・エンジンが IPv6 を検出しない場合があります。その結果、ETL Development がグリッド・エンジンに接続できない場合があります。

対処方法：

1 ETL Development インストール・ディレクトリの *ETLDev.lap* ファイルを編集します。

2 java.net.preferIPv6Addresses プロパティを true から false に変更します。

3 ETL Development を再起動します。

5.3.2 locale.dat ファイルが設定されていない場合、プロジェクトの実行が失敗する

[CR #563610] Unix および Linux では、*$ETLinstall/ocs/locale/locales.dat* ファイルのプラットフォームに言語を表す値を設定せずにプロジェクトを実行すると、プロジェクトの実行が失敗する可能性があります。

対処方法 : *locales.dat* ファイルに適切な言語設定を追加します。たとえば、Solaris マシンを使用し、ロケールが `ja_JP.utf8` である場合、*locales.dat* ファイルを開き、[*sun_svr4*] セクションを検索して、次を設定します。

```
locale = ja_JP.utf8, japanese, utf8
```

5.3.3 IPv6-only 環境は Microsoft Vista で作動しない

[CR #552407] デフォルトでは、Microsoft Vista は IPv6 をサポートします。ただし、IPv6–only ネットワーク環境で Vista を使用している場合、このエラーが表示されます。

```
ERROR : Cannot create socket. An address incompatible
with the requested protocol was used.
```

これは主に JDK および Windows Vista 間に互換性がないためです。ただし、IPv4 および IPv6 の混合 (デュアルスタック) 環境で作業している場合、同じエラーは発生しません。

対処方法：なし

5.3.4 UNIX プラットフォームでの中国語ファイルまたはフォルダ名へのアクセスに関する問題

[CR #549891] ほとんどの UNIX プラットフォームでは、LANG 環境変数が、zh_CN.GBK または zh_CN.gbk に設定され、ファイルまたはフォルダ名の簡体字中国語文字をサポートしています。ただし、一部の UNIX プラットフォームでは、LANG 環境変数を使用中のマシンでサポートされているロケールに設定しない限り、エラーが発生する可能性があります。

対処方法：使用可能なロケールのリストを表示し、LANG 環境変数として適切なロケールを設定するには、locale -a コマンドを実行します。たとえば、locale -a | grep zh コマンドを実行すると、次のサポートされたロケールが表示されます。

- zh.GBK
- zh.UTF-8
- zh_CN.EUC
- zh_CN.GBK

環境変数 LANG を zh.GBK または zh_CN.GBK に設定し、簡体字中国語をサポートできます。

ロケールのリストが表示できない場合、使用中のマシンに必要な言語パッケージをインストールします。

5.3.5 バイト順マークのあるソース・ファイルが間違って解析される

[CR #543716] [Fixed by Bytes] プロパティを使用してファイルを解析する場合は、ソース・ファイルにバイト順マークを含めないでください。含まれる場合、ファイルは間違って解析されます。

対処方法：解析する前に、テキスト・エディタを使用してソース・ファイルからバイト順マークを削除します。

5.3.6 Oracle 10g から日本語の文字が正しく変換されない

[CR #539726] 日本語の文字「～」は、UTF-16LE: 0x5EFF としても知られており、Windows XP の ETL Development で、Oracle 10g または 11g ネイティブ・インタフェースか、Oracle 10g または 11g ODBC インタフェースを使用すると、送信元 Oracle 10g データベースから正しく変換されません。

対処方法：ETL Development で、Windows XP に付属の Oracle の Microsoft ODBC ドライバを使用して、Windows XP で実行されている ETL Development マシンのレジストリで、ロケールの NLS_LANG 環境変数を "AMERICAN_AMERICA.JA16SJIS" に設定します。

5.3.7 Insert Location コンポーネントで SQL Anywhere 10 から Unicode データをロードできない

[CR #531902] IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントは、nvarchar データ型を使用して、SQL Anywhere 10 から西欧言語以外のデータおよびマルチバイト文字データをロードすることはできません。

対処方法：なし

5.3.8 パスワード・フィールドにマルチバイト文字を入力できない

[CR #530806] 一部の ETL パスワード・フィールド (たとえば、コンポーネントの [Database Configuration] ウィンドウ) に西欧言語以外またはマルチバイト文字で直接入力できません。パスワード・フィールドに直接入力できるのは、ASCII 文字のみです。

対処方法：西欧言語以外またはマルチバイトの文字は、パスワード・フィールドに直接ペーストすることができます。

5.3.9 Insert Location コンポーネントで Microsoft SQL Server および IBM DB2 から Unicode データをロードできない

[CR #530253] IQ Loader DB via Insert Location コンポーネントでは、Sybase Enterprise Connect™ Data Access (ECDA) を使用して、Microsoft SQL Server および IBM DB2 から Sybase IQ に西欧言語以外のマルチバイト文字データをロードできません。

対処方法：なし

5.4 Sybase IQ 12.7 を持つ ETL の使用に関する問題

このセクションでは、Sybase IQ 12.7 のみを持つ ETL を使用する際の既知の問題について説明します。

5.4.1 Sybase ETL インストール・パスの特殊文字

[CR #454526] Sybase ETL Development または ETL サーバのインストール・パスに特殊文字があると、データベースのアクセス時に問題が発生する場合があります。

たとえば、*C:¥Program Files (x86)¥Sybase:* のようにカッコが含まれているパスに Sybase ETL サーバがインストールされている場合、Oracle データベース・クライアントに接続すると次のエラーが返されます。

```
ORA-12154: TNS:could not resolve the connect

identifier specified
```

対処方法：英数字のみを使用したインストール・パスを選択することをおすすめします。この問題を回避するには、インストール時に Windows 2003 EE 64 ビット・オペレーティング・システムによって追加される (x86) をデフォルトのインストール・ディレクトリから削除します。

5.4.2 IQ データベース・オプションの推奨される設定

[CR #447096、CR #447097] IQ データベース・オプション `FORCE_NO_SCROLL_CURSORS` はデフォルト設定 (OFF) にしてください。それ以外の設定では、ETL を介してデータを移動するときにフェッチ・エラーが発生する場合があります。

データベース・オプションの設定を調整するには、dbisql で SET OPTION コマンドを使用するか、Sybase Central でデータベースを右クリックし、サブメニューから [Set Options] を選択します。

5.5 ETL 製品以外の問題

この項では、サード・パーティの製品とコンポーネントの既知の問題について説明します。

5.5.1 SQL Anywhere 11 を日本語または中国語で Windows にインストールすると、エラーが表示される

[CR #561733] SQL Anywhere 11 を日本語または中国語の Windows オペレーティング・システムにインストールすると、エラーが発生する可能性があります。

対処方法：エラー・メッセージを無視します。

5.5.2 ODBC ドライバを使用してマルチバイト・データを取得または挿入すると、無効な文字が表示される

[CR #550309、#550305] Windows および Solaris では、SQL Anywhere 10 ODBC ドライバを使用してプロジェクトを実行し、UTF8 でエンコードされた Sybase IQ 15.0 データベースからマルチバイト･データを取得、あるいはデータベースへデータを挿入すると、マルチバイト・データは送信先データベースから無効な文字として取得されます。

対処方法：Windows の場合

1. [スタート] - [設定] - [コントロール パネル] - [管理ツール] - [データ ソース (ODBC)] を選択します。
2. ユーザ・データ・ソースまたはシステム・データ・ソースのリストから SQL Anywhere 10 DSN の名前を選択します。
3. [構成] をクリックします。
4. [詳細設定] タブをクリックします。
5. UTF8 を [Character Set] フィールドに入力します。
6. ODBC Data Source Administrator ウィンドウを終了するまで、[OK] をクリックします。

Solaris の場合

ODBC 設定ファイルに "Charset=utf8" を追加します。

5.5.3 ODBC を使用して SQL Anywhere 10 または 11 のデータベースへのリポジトリ接続を作成すると失敗する

[CR #548368] ODBC コネクティビティを使用して、SQL Anywhere 10 または SQL Anywhere 11 データベースにリポジトリ接続を作成している間に、エラーが発生する可能性があります。

対処方法 : リポジトリ接続を正常に作成するには、Add Repository Connection ウィンドウの [Schema] フィールドにスキーマ名を手動で入力します。

5.5.4 大容量のデータを転送すると、過度のメモリが消費される

[CR #545145] Adaptive Server Enterprise からの大容量のデータ・ローをテキストに転送する際、メモリの消費が増大して、プロジェクトが正常に実行されるまでメモリが解放されません。

対処方法 : Adaptive Server の ODBC データ・ソースを設定するときは、[Use Cursors] を選択します。

5.5.5 クエリが大容量の結果セットを取得する必要がある場合、ETL によって応答が停止される

[CR #540683] 多数のローを含んでいるテーブルからレコードを取得するためにクエリを実行している場合、DB Data Provider Full Load コンポーネントを再初期化すると、ETL Development によって応答が断続的に停止される可能性があります。過度のメモリが消費されるため、Sybase ETL サーバの仮想メモリが不足する可能性があります。

対処方法 : Adaptive Server の ODBC データ・ソースを設定するときは、[Use Cursors] を選択します。

5.5.6 Windows プラットフォーム上のプロジェクトが失敗してパイプ・エラー・メッセージが表示される

[CR #539346] ETL サーバと Sybase IQ サーバが別々の Windows プラットフォームに存在する場合、プロジェクトが失敗し、「パイプが存在しないこと」、または「パイプ・パーミッション」を示すエラーが表示されます。

対処方法 :

1 Sybase IQ および ETL サーバのホストが相互に共有ディレクトリにアクセスできることを確認します。

a マルチユーザのオペレーティング・システムである Windows 2003 で Sybase IQ が実行されている場合、ターゲット Sybase IQ サーバが起動したセッションにログインしていることを確認します。

b Sybase IQ ホストから ETL サーバのホストにアクセスしようとすると、ターゲット Sybase IQ サーバが表示されることを確認します。

2 対処方法 1 を実行した後でも、パイプ・エラーが解決されない場合は、IQ Bulk Load Sybase IQ コンポーネントの [Load Stage] オプションにパイプ名ではなくデータ・ファイルを指定して、コンポーネントが含まれるプロジェクトを実行します。『Sybase ETL 4.9 ユーザーズ・ガイド』の「第 5 章 コンポーネント」の「DB Bulk Load Sybase IQ」を参照してください。

5.5.7 IBM AIX 上の DB2 に書き込まれる日付フォーマットが正しくない

[CR #538539] DB Data Provider Index Load および Text Data Sink コンポーネントを使用した場合、IBM AIX 上の DB2 への出力日付フォーマットが正しくありません。

対処方法：この場合は、次の 2 つの対処方法があります。

1 [Read Block Size] を 1 に設定します。[Read Block Size] を減らすと、パフォーマンスが低下することに注意してください。

2 CHAR 関数を使用して、date または time 型のカラムに変換するクエリを char データ型に変更します。たとえば、col_1 が date 型カラムで、col_2 が time 型カラムで、col_3 が timestamp (この型は問題を示していない) である場合、次の SQL 文によって問題が修正されます。この文では、ユーザが [Read Block Size] を変更する必要がなく、多数のブロック処理に関連したパフォーマンスの低下を避けることができます。

```
select CHAR(col_1), CHAR(col_2), col_3 from DATE_TIME_TBL
```

Text Data Sink コンポーネントの出力は、次のようになります。

```
COL_1,COL_2,COL_3

1963-12-08,12.00.00,1991-03-02 08:30:00.000

1967-04-10,12.01.01,1991-04-02 08:30:00.000
```

CHAR 関数を使用しない場合、Text Data Sink 出力は、次のようになります。

```
COL_1,COL_2,COL_3

1963-12-08,12:00:00,1991-03-02 08:30:00.000

0004-10-00,01:01:00,1991-04-02 08:30:00.000
```

DB2 テーブル (DATE4_TBL テーブルなど) に書き込まれたデータを表示するには、次のように入力します。

```
select * from DATE4_TBL
```

DB2 の DATE4_TBL のコンテンツは、次のようになります。

```
COL_1      COL_2    COL_3
---------- -------- --------------------------

12/08/1963 12:00:00 1991-03-02-08.30.00.000000

04/10/1967 12:01:01 1991-04-02-08.30.00.000000
```

5.5.8 ODBC ドライバ 15.0.105 を使用した場合に、データベースが表示されない

[CR #531861] Adaptive Server ODBC ドライバ・バージョン 15.0.105 以前を使用した場合、ETL では、データベース・インタフェースに ODBC を選択しても、プロパティ・ウィンドウの [Host Name] フィールドにデータベースが表示されません。

対処方法 : Sybase Adaptive Server ODBC ドライバ・バージョン 15.0.305 以降にアップグレードします。

5.5.9 Adaptive Server ODBC データ・ソースに [Use Cursors] を指定する

[CR #500832] ETL では、ODBC インタフェースを使用して Adaptive Server Enterprise から binary、varbinary、または time 値を表示できません。

対処方法 : Adaptive Server の ODBC データ・ソースを設定するときは、[Use Cursors] を選択します。

5.5.10 ETL 4.2 で作成された SQL Anywhere リポジトリに接続できない

[CR #480747] ETL 4.9 にマイグレートする際、ODBC コネクティビティを使用して SQL Anywhere リポジトリを ETL 4.2 に作成する場合、Sybase インタフェースを使用して開いている間にエラーが発生する可能性があります。

対処方法 : ODBC コネクティビティを使用して、ETL 4.2 SQL Anywhere リポジトリに接続します。

5.5.11 IQ データベース・オプションの推奨される設定

[CR #447097] IQ データベース・オプション FORCE_NO_SCROLL_CURSORS はデフォルト設定 (OFF) にしてください。それ以外の設定では、ETL を使用してデータを移動するときにフェッチ・エラーが発生する場合があります。

対処方法 : データベースのオプションの設定を調整するには、dbisql で SET OPTION コマンドを使用するか、Sybase Central でデータベースを右クリックし、サブメニューから [Set Options] を選択します。

6. マニュアル情報と変更点

この項には、製品マニュアル、オンライン・ヘルプ、およびデモに対する更新情報と補足説明が含まれています。

6.1 ETL Development、製品マニュアル、およびデモの表示

ETL Development GUI および ETL 製品のマニュアルを正しく表示および使用できることを確認し、製品にインストールされている ETL Flash デモを実行するには、次の操作を行います。

- 画面の解像度が 800x600 ピクセルに設定されている場合、Content Explorer のダイアログは大きすぎて表示できないため、画面の解像度を 1024x768 ピクセルに設定します。
- Windows Vista で ETL Flash デモを実行するには、Adobe Web site (http://www.adobe.com) から Adobe Flash Player の最新バージョンをインストールします。
- [Help] - [What's New in ETL Development] から『新機能ガイド』にアクセスするには、Adobe Web site (http://www.adobe.com) から Adobe Reader 最新バージョンをインストールします。

6.2 インストール・ガイド

この項には、『Sybase ETL 4.9 インストール・ガイド』に対する更新情報と補足説明が含まれています。

6.2.1 サポートされる Oracle ODBC インタフェース・ドライバのバージョンが正しくない

サポートされる Oracle ODBC インタフェース・ドライバのバージョンは Oracle ODBC 11.01.00.06 です (Windows のみ)。『ETL 4.9 インストール・ガイド』の「第 1 章 概要」の「インタフェース」で指定されている Oracle ODBC 11.01.01.06 (Windows のみ) は正しくありません。

6.3 ユーザーズ・ガイド

この項には、『Sybase ETL 4.9 ユーザーズ・ガイド』に対する更新情報と補足説明が含まれています。

6.3.1 第 4 章 高度な概念とツール

次の情報は、「第 4 章 高度な概念とツール」の「ジョブとスケジュール・タスクの管理」で説明されていません。

Runtime Manager の [Last Result] カラム

[CR #584973] Runtime Manager の [Last Result] カラムには、すでに実行済みのすべてのスケジュール・タスクに対して、Failed または Succeeded の値が表示されます。Web Monitor で表示した場合、同じ情報が、[Schedule Task List] の [Execution Result] カラムに表示されます。

- Succeeded － タスクが予定通りに完了したか、次のいずれかの方法で完了前に終了したことを意味します。
  - Runtime Manager の [Terminate a Running Schedule] アイコンをクリックしたか、[Actions] - [Terminate] を選択した。
  - Execution Monitor の [Cancel Execution] をクリックした。
  - Web Monitor の [Cancel] をクリックした。

  [Last Result] カラムの値 Succeeded は、必ずしもエラーなしでタスクの実行が完了したことを意味するものではありません。

- Failed ー タスクが予期せずに終了したことを意味します。たとえば、Windows タスク マネージャやオペレーティング・システムのコマンド・ラインを使用してグリッド・エンジンのプロセスを強制終了した場合などがあります。

注意 スケジュール・タスクを終了する場合は、Windows タスク マネージャやオペレーティング・システムのコマンド・ラインを使用しないことをおすすめします。

.odbc.ini ファイルの設定

[CR #589842] ETL スケジューラを使用して UNIX 上で動作するサーバを使用した繰り返しタスクを設定する場合、UNIX マシン上の *.odbc.ini* ファイルを設定して、リポジトリ・データ・サーバへのポインタを含める必要があります。

❖ **.odbc.ini ファイルの設定**

1. テキスト・エディタを使用して *etc/.odbc.ini* ファイルを開きます。
2. 次のようにエントリを追加します。

```
[repository_data_server]
uid=dba
pwd=sql
EngineName=demo
CommLinks=tcpip(host=<hostname>;port=<portnumber>)
AutoStop=no
DatabaseName=demo
```

ここで、*repository_data_server* は、SQL Anywhere データ・サーバの名前です。

注意 エントリに "AutoPreCommit" 接続パラメータが含まれていないことを確認します。

---

3. ファイルを保存します。
4. ETL スケジューラで繰り返しタスクを設定して、ジョブを実行します。

6.3.2 第 5 章 コンポーネント

[CR #578575] 「第 5 章 コンポーネント」で説明されている Continue on Error プロパティは、いかなるジョブ・コマンドでも使用できません。

6.3.3 付録 D ベスト・プラクティス

シミュレーションでは、post-SQL でエラーが発生した場合にデータのロールバックは行われません。

[CR #584682] 次の情報は、「付録 D ベスト・プラクティス」の「ETL サーバを使用した場合のベスト・プラクティス」で説明されていません。

実行中に post-SQL エラーが発生した場合は、[Execute post-processing as for successful execution] オプションを選択しないでください。このオプションを選択すると、エラーの有無にかかわらずプロジェクトのすべてのトランザクション・コンポーネントがコミットされます。

7. テクニカル・サポート

Sybase ソフトウェアのインストール環境ごとに、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタとの連絡担当者がいます。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合は、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

8. その他の情報

Sybase Getting Started CD、SyBooks™ CD、Sybase Product Manuals Web サイトを利用すると、製品について詳しく知ることができます。

- Getting Started CD には、PDF 形式のリリース・ノートとインストール・ガイド、SyBooks CD に含まれていないその他のマニュアルや更新情報が収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Getting Started CD に収録されているマニュアルを参照または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です (CD 内のリンクを使用して Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます)。
- SyBooks CD には製品マニュアルが収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。 Eclipse ベースの SyBooks ブラウザを使用すれば、使いやすい HTML 形式のマニュアルにアクセスできます。

  一部のマニュアルは PDF 形式で提供されています。それらのマニュアルは SyBooks CD の PDF ディレクトリに収録されています。PDF ファイルを開いたり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。

SyBooks をインストールして起動するまでの手順については、Getting Started CD の『SyBooks インストール・ガイド』、または SyBooks CD の *README.txt* ファイルを参照してください。

- Sybase Product Manuals Web サイトは、SyBooks CD のオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使ってアクセスできます。また、製品マニュアルのほか、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、ニュース・グループ、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

  Sybase Product Manuals Web サイトをご覧になるには、Product Manuals (http://www.sybase.com/support/manuals/) にアクセスしてください。

8.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報

Sybase Web サイトの技術的な資料は頻繁に更新されます。

❖ **製品動作確認の最新情報にアクセスする**

1. Web ブラウザで Technical Documents (http://www.sybase.com/support/techdocs/) を指定します。
2. [Certification Report] をクリックします。
3. [Certification Report] フィルタで製品、プラットフォーム、時間枠を指定して [Go] をクリックします。
4. [Certification Report] のタイトルをクリックして、レポートを表示します。

❖ **コンポーネント動作確認の最新情報にアクセスする**

1. Web ブラウザで Availability and Certification Reports (http://certification.sybase.com/) を指定します。
2. [Search By Base Product] で製品ファミリとベース製品を選択するか、[Search by Platform] でプラットフォームとベース製品を選択します。
3. [Search] をクリックして、入手状況と動作確認レポートを表示します。

❖ **Sybase Web サイト (サポート・ページを含む) の自分専用のビューを作成する**

MySybase プロファイルを設定します。MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

1 Web ブラウザで Technical Documents (http://www.sybase.com/support/techdocs/) を指定します。

2 [MySybase] をクリックし、MySybase プロファイルを作成します。

8.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス

❖ **EBF とソフトウェア・メンテナンスの最新情報にアクセスする**

1 Web ブラウザで the Sybase Support Page (http://www.sybase.com/support) を指定します。

2 [EBFs/Maintenance] を選択します。ユーザ名とパスワードの入力が求められたら、MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。

3 製品を選択します。

4 時間枠を指定して [Go] をクリックします。EBF/Maintenance リリースの一覧が表示されます。

鍵のアイコンは、「Technical Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[Edit Roles] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。

5 EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。